

第二章 5-1 浜松市商店会街 活性化事業について

東海町づくり研究会の講演会、富士吉原商店街の視察、横須賀商店街視察を実施した。

笠井町の魅力発見を写真展で演出する事を提案された。

一店一品の提案として、白い達磨に自由に作品を描く。

健康下着、無添加食品、ふるさと土産品、子供だるま画展コンテスト、懐かしい写真展、参加店に十日市の幟と店内にタベストリーで賑やかに演出する。

3年間の継続事業として認可を受けた。それを実行する事業に対して補助金を受ける事が出来ると言う事で会員が実行できる事から始めていった。

だるま入りタオル、開運テッシュペーパー、十湖絵葉書、青厩絵葉書、俳句メモ帳、だるま定期預金、

合格九札、だるま入買い物袋、弁当ランチボックス、だるまキャラクター、だる弁（七転八起 780円）値段が面白い、観音饅頭 7個 1000円（小さくて時代にマッチしている）

第1回写真展 平成23年1月10日／「いにしえに写真展」畳敷の大広間に青ビニールにベニヤ板を乗せて、履物のまま入場した。100名も入場すると床が抜けるかと心配になった。と言う。村木千代八君が集めた昔の写真をサイ企画がA3に画像を見やすくして展示した。大好評だった。

第2回写真展 平成24年1月10日／「織物の町笠井」床を直す事が第一、箆笥、荷物、台所セット、風呂場を処分、畳はトラック2台分を村木千代八君の田畑へ捨てさせてくれた。廻り舞台は近隣の方に見ていただき、厚いベニヤ板で床を整備した。縁の下は大石に柱が乗っただけなので、基礎をコンクリートで固めて頑丈にした。笠井・豊西の昭和の風景を村木千代八君とサイ企画がすべて演出してくれた。

笠井商店会 60 周年 平成 24 年 3 月 18 日／「**肴町発展会**」特別出店 笠井商店会 60 年の歩み、喜多見ゆり歌謡ショー、軽トラ市、十日市音頭作詞作曲して踊りを披露。

第 3 回写真展 平成 25 年 1 月 10 日／「**ふるさと笠井**」笠井・豊西の 14 の祭特集と桜の名所、を展示した。祭での一番人気は、投げ餅でぞろぞろと集まってくる。各町それぞれに、個性的に企画演出して、子供が喜んでいる姿が印象的だった。

浜松市活性化事業のお陰で、商店会は流通革命下でも、商店として活動が出来た

東区補助事業 平成 24 年 5 月 1 日から平成 25 年 1 月 31 日迄 **「未来への贈物」**

- 1) 平成 10 年～11 年の笠井・豊西地域の年間行事を撮影したフィルムを CD に変換して保存した。
- 2) 平成 24 年 町の文化遺産を 1 年かけて撮影する事を決めた。
- 3) 写真 7000 枚 CD37 枚 アルバム 55 冊 **笠井公民館**と、笠井の歴史と文化を学ぶ会の**（村木千代八宅）**へ保管した

笠井だるま市保存会のメンバーと写真愛好家を中心となって記録写真をまとめた。笠井商店会とだるま市保存会の役員は同一人物が役員を兼ねている

笠井の商店主は稼業をやりながら、町の祭典年番、氏子総代、自治会長、PATA 役員、消防署分団役員をそれぞれの立場で受けてきた。

流通革命により、郊外の大型店の進出により商店街が形成されて、車社会となり、大きく経済の仕組みが変わり**商店は消えていった**。

笠井の文化遺産／笠井だるま市は笠井だるま市保存会が守っている。春日神社の禮大祭は、昔からの伝統の組織に従い継続している。

どんな時代になっても、人はそれを乗り越えてきた。人生 50 年は実質の稼働年数だ。次の世代の時代が開かれてゆく。

そしてコロナ化により、その生活様式は大きく変わり始めている。

昔からの慣習はことごとく変わってゆく。新しい生活様式が始まった

人口頭脳、電気自動車、無人化、ロボットの進歩、アイホンを使いこなせれば時間の効率化生まれる。

しかし、高齢者には難しい世の中となった。

いずれ笠井町から商店は完全に消えてゆくだろうが、一時代を生き抜いた生き様を未来への贈物としてまとめた。